

学校 教育 目標	「自分が好き 友だちが好き このまちが好き」				
	○基礎基本の学力と確かな読解力、表現力のもとに、コミュニケーションの力を育てます。(知) ○規範意識と思いやりをもち、他者とよりよい関係を築くことができる子を育てます。(徳) ○強い体や心をつくり、自らの健康な生活に生かせる子を育てます。(体) ○下野谷の町や人の良さを知り、地域と共に生きる子を育てます。(公) ○自国の文化や伝統を理解し、いろいろな国とのつながりを大切にすることを育てます。(開)				
学校 概要	創立 93 周年	学校長 高橋義成	副校長 中尾和世	2 学期制	一般学級: 15 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 424 人	主な関係校: 潮田中学校 潮田小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくり> <言語活動> <持続可能な社会の創造に貢献する力>	潮田中学校 潮田小学校 下野谷小学校	夢をもって自立できる子 ○キャリア教育を軸にした教育活動の推進 ・社会とつながる学習を進め、人の生き方に触れたり、社会の仕組みに気づいたりできる授業を展開する。 ・子どもが日々の学習に取り組む中で、今や将来の生活につながることを実感できる授業を展開する。 ・3校の授業研究に参加し授業交流を推進するとともに、合同の研修を実施す

中期取組目標 ○児童の自尊感情を育むとともに、学校・家庭・地域の三者が一体となった学校づくり、開かれた学校づくりをめざします。 ・基礎学力の定着をはかると共に、読書活動やすべての教科や特別活動の時間等による言語活動を推進し、リテラシーの力、ディスカッションする力を育みます。 ・誰もが安全・安心して学校生活を送ることができるようにスタンダードに基づいた落ち着いた環境づくり推進します。 ・障害をもつ方や外国に繋がる方などを含め、他者を理解する態度や多様性を尊重する態度を育成します。 ・家庭や地域の方と様々な場面で力を合わせ、「まち」や「人」の良さを感じ、地域を愛する気持ちを育てます。

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 担当 研究部	①互いに伝え合う力を高めるために、学習形態を工夫する。自分の考えをもつ事への指導からペア学習やグループ学習などの少人数、一斉学習への学習形態の工夫。②問題解決学習の形態を元に、子どもの考えを引き出し、子どもたちが学習をつくるような指導・支援をする。体験的な活動を多く取り入れ、学んだ知識を実生活に役立てていけるようにする。③スキルタイムの充実と家庭学習の定着と習慣化を図る。
豊かな心 担当 児童指導部・人権部	①「縦割り活動」を年間通して継続的に行い、異学年交流を行う。下学年の友達に優しい気持ちで接する高学年になるような支援を行う。②こども人権委員会(年間2回程度)を実施し、子ども自身が学校内の課題に気づき、主体的に問題解決にかかわるようにする。
健やかな体 担当 体育部	①「実践運動」として「大縄跳び」「マラソン大会」に取り組み、体力向上を図る。また、地域行事の「ジャンボ縄跳び大会」に参加することを目標にし、意欲的に練習に取り組むようにする。②「歯磨き運動」に継続的に全校で取り組み、歯の健康に対する意識を高める。③学校保健委員会のテーマを意識し、全校で健康運動に意欲的に取り組むようにする。
特別支援教育 担当 特別支援教育部・コーディネーター	①Y-Pアセスメントを年2回行い、児童の実態を全職員で的確にとらえ、情報を共有する。②児童の実態を捉え、横浜プログラムに取り組み、発達段階に応じた社会的スキルが身に付けられるようにする。③通級指導教室や東部療育との連携を密にし、個にあった指導計画を立てると共に、指導・支援を行う。④特別支援教室での少人数指導を積極的に取り入れ、児童の居場所づくりと基礎学力の定着をはかる。
社会生活との関わり 担当 教務・まち担当	①6月の地域行事に学校全体で積極的に参加することで、地域の方の願いを知り、まちを愛する気持ちを育む。②地域防災拠点訓練を学校・家庭・地域で連携し実施することで、防災の大切さに気づき、安全に行動する力をつける。③「したのやまつり」を地域と協働して盛り上げると共に相互理解を深めるようにする。
児童指導 担当 児童指導部	スタンダードで生活の仕方を揃えていく必要性について、児童に丁寧に理解を深められるよう指導する。また、スタンダードは常に見直しを行い改善していく。「きまりを守る子」から「きまりをつくる子」を育成する学校をめざしていく。特別支援の視点から、関係諸機関との連携を積極的に活用して教育効果を高める。 担当 a22 担当 a23
いじめへの対応 担当 児童指導部・人権部	その言動が相手にどのように思われたり、伝わっているのかを丁寧に児童へフィードバックしながら、小さな差別も見逃さずに、その場で指導し、決して許されないという学校風土を構築していくようにする。全校の情報を共有することで、誰もが同じ指導を粘り強くできるよう教職員の相互理解を深める。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務・メンター・研究部	①学年を束ねる学年主任をミドルリーダーとして育成するために、「学年主任会議」の充実を図ると共に、学年主任相互の連携を密にし、組織的に学年運営や学校運営に取り組みできるようにする。②月1回、メンター研修会を定期的に行い、授業参観等や情報交換を通して、メンターの授業力・児童指導力を高める。10年次教諭や主幹教諭が指導にあたるようにする。